

静岡県現代俳句協会会報

No.129

令和3年9月25日発行



脱・小さな個性

花房 なお

静岡県現代俳句協会常任幹事

所属している結社で、今、小さなブーム
になっているのが、『回文俳句』である。
上から読んでも下から読んでも、同じ言葉
になる俳句だ。「たけやぶやけた」を五七
五で作るといふものだ。

きっかけはリモート句会開始であった。
コロナ禍が長引く中、都内での句会が主な
結社の為、地方の連衆が参加できず、始め
ることとなったのだが、その際、代表から
提案されたのが『回文俳句』であった。五
句出しの内、一句は回文にするようにと。
リモートという新しい試みをするのだから、
句も今までに作ったことのない新しいもの
を出し合おうという提案である。

まあ岸は草萌え藻裂く美(は)しき海女
戦(いくさ)果て長閑や過度の手は作爲
私の拙句で申し訳ないが、雰囲気は分かっ
て貰えるだろう。作ってみて分かることだ
が、難しいの一言である。単語の並べ替え、
パズルに似ている。回文で誰もが納得する
句が作れるのなら、それは才能だと断言で
きる。

なぜ難しいのか。自分の思いや感じたこ
とを句に入れられないからだ。句の作り方
が全く違うからだ。そもそも句は、「わが
身が得た感動を伝える」手段のひとつであ
る。反して回文はパズルである。言葉の入
れ替え作業である。

ではこの作業、私にとって必要だろうか
と自問した時、「小さな個性」にこだわっ
ている自分に気づくことができた。ここで
いう小さな個性とは、自分が作る句の方向
性である。静岡県現代俳句協会の大半
が、それぞれの結社に所属していること
と思う。結社の中で台頭する為には、結
社誌の巻頭を飾る必要がある。巻頭を
飾るには、句会で主宰の特選を得る必要が
あろう。特選句に選ばれる為には、主宰の
好む句を詠むという方向に行く。結社内
の句の在り方を「小さな個性」と表現して
みた。

それが悪い訳ではない。大いに励めばい
い。しかし、「大きな個性」も存在する。
それを発揮できる場のひとつが、この現代
俳句協会だと言いつつしまうと、賛美し
すぎだろうか。伝統、革新、文語、口語、
何でもありの中で、自分の「個性」をどう
表現して行けるのか。それは結社の中では
挑戦できない、己への革新と呼べないだろ
うか。俳句には、挨拶性、滑稽性、社会性、
先見性、もちろん、伝統性がある。あえて
「脱・小さな個性」というタイトルにした
のは、ここに様々な俳人が集い、大いに愉
しんで欲しいとの願いを込めてである。

令和三年度

静岡県現代俳句協会

俳句大賞表彰式・俳句大会

新型コロナウイルスの感染状況が収束に至らず、静岡県でも「まん延防止等重点措置」が八月二十日より「緊急事態宣言に基づく緊急事態措置」に切り替わった。それにより、八月二十八日に「あざれあ」で予定されていた「俳句大賞表彰式」および「俳句大会」は対面しての集会が中止された。それぞれの結果については、会長・事務局長の手により、会員各位や受賞者に「作品集」「賞状」「賞品」等が送付された。

なお、俳句大賞の応募総数は二十七編、俳句大会への投句数は百二十六句であった。

俳句大会 表彰作品

協会賞 (得点10)

白シャツの袖まくりあげ兜太くる

原 百合子

優秀賞 (得点8)

逢いにゆくあの一本の山桜

滝浪さち子

優秀賞 (得点8)

麦酒酌む縄文人のやうに座し

花房 なお

優秀賞 (得点8)

大夕焼火傷しさうな風見鶏

東城 保子

優秀賞 (得点7)

坂多き街多感なる夏帽子

滝浪 武

秀 作 (得点5)

遠花火ワンクリックで消える恋

田中由美子

秀 作 (得点5)

ときどきは忘れ上手のナンジャモンジャ

鈴木あさ子

秀 作 (得点5)

寒鯉に不動のゆとりありにけり

宮下 艶子

秀 作 (得点4)

陽炎にゆらめく父を海に追ふ

植田 密

秀 作 (得点4)

薫風や開けば楽の湧く絵本

戸塚 きゑ

秀 作 (得点4)

竹皮を脱ぐまつすぐに奔放に

太田 依子

秀 作 (得点4)

鉢底の円にしたがふなめくぢり

川崎 里子

秀 作 (得点4)

言葉待つ茅花の絮を飛ばしては

戸塚 きゑ

秀 作 (得点4)

露を剥く指に大地の風を乗せ

渡辺 郁子

秀 作 (得点4)

沢蟹の領域に居て充電中

永井千恵子

秀 作 (得点4)

背を伸ばし白靴で行く爆心地

花房 なお

特別選者賞

植田 密 特選

五月雨のまだ棄てられぬ白衣かな

大石 恒夫

金子 徹 特選

蹴轆轤や地にとどまれる花の冷

川崎 里子

滝浪 武 特選

滝しぶく天命のごと滝しぶく

望月 富子

東城 保子 特選

愛憎のからみの極みのうぜん花

渡辺 郁子

加用 富夫 特選

寒鯉に不動のゆとりありにけり

宮下 艶子

花房 なお 特選

父の日のふところを流れる大河

滝浪 武

第十二回静岡県現代俳句大賞 総評

選考委員長 滝浪 武

第十二回静岡県現代俳句大賞に二十七編の応募をいただいた。作者のそれぞれの想いと工夫が、しっかり刻みつけられている作品の選をする選考委員の側も、緊張することになる。いつでもそうであるが、応募作品に順位をつけることは難事業であった。選考委員は、現代俳句協会役員二名、静岡県現代俳句協会役員四名の計六名である。選考のプロセスを述べると、まず応募作品二十七編の第一次選考を行って、この中から十六編をノミネート作品とした。この十六編を対象として、この中から、選考委員それぞれが八編ずつを一位

から八位までの順位を付けて選抜した。それぞれの順位に配点を付しこれに従って集計したところで、その得点の上位から受賞者を決定したものである。選考委員会においては、全体として、作者の方向性とそれによる独自性の存在ということが議論の中心となった。こうした意見を総合した結果、本年度の「静岡県現代俳句大賞」は、尾内以太氏の「神も仏もない」に決定した。准賞は、第二次選考時の合計点数が同点の作者が三名おり、いずれも優劣をつけがたく、この三名を同時受賞とした。「陽炎へ」の越川都さん、「ヒトとして」の渡邊弘美さん、「青田風」の田中由美子さんである。奨励賞としては、「なんだかだ」の岡部木青さん、「星の声」の加用富夫さんの二名である。いずれの作品も、その底流に、作者のもつ世界の広さを感じさせるものがあつたといえる。

受賞作についての選考委員の感想を述べてみる。大賞の「神も仏もない」については、全体として「独自な感性に惹かれる」としている。(「虫すだく二人の祖父がやってくる」は「生命力の賛歌」を感じるとし、「切り口がよく大きなテーマがある」と評する。(貝殻は碎けに碎け鱗雲も好評。(トナカイの鈴を吊して飾壳)の句は「これこそ俳諧」と指摘している。准賞の「陽炎へ」の評としては、「独特の世界観を感じる」とし、また「伝統的な手堅い作品」として、心への直撃性に着目している。「ヒトとして」の評は、まず「表現力が巧み」であるとし、また、「母という衣を脱げばもう蜻蛉」の句は、「思想がよい」とする。「青田風」は、「死と生がしずかに凝縮されている」とし、また「日常を気負わず素直な言葉で詠んでいる」と評している。今回の受賞作を読んで、その広がりを感じてみると、あらためて、自身の主観を客観視することが大事であることに思い至る。

今回も力強い作品を応募された方々に、あらためて敬意を表したい。

第十二回 静岡県現代俳句大賞 入賞作品

大賞 神も仏もない

尾内 以太

虫すだく二人の祖父がやって来る
貝殻は砕けに砕け鱗雲
みなし栗にニンゲンのなき星もがな
黄落期ページが増える福音書
木犀は水面に映り香も映る
十字架の赤いネオンは月を刺す
小春日へ落ちる無人の三輪車
茶の花や奥津城の戸は自動ドア
湯気の立つブロッコリーや薬師仏
トナカイの鈴を吊して飾壳

准賞 ヒトとして

渡邊 弘美

羊水の海への船出春動く
啓蟄や母乳ほんのり月の色
聖母みな幼な顔して白椿
聖五月歴史書べらと音立てる
青嵐男に子宮なき痛み
マネキンもスーツでバスを待つ夏日
母という衣を脱げばもう蜻蛉
初日仰ぐ名もなきヒト科ヒトとして
つながっていただれかと花筏
ひなげしや死者のポーズで終わるヨガ

奨励賞 なんだかだ

岡部 木青

杖継る春風の中ひとりかも
そんなふう生きる証の柳絮飛ぶ
踏青や靴紐ゆるく結びたり
虹の背の真上あたりで眠ろうか
下闇に入れば沈没船の幻影
藪蚊打つ因果怖れることのある
せかせかと生きて今生蟬時雨
雨月かな猫と団子と独り言
醒めるまで夢の道行小夜時雨
なんだかだありてシャボン玉さびしい

准賞 陽炎へ

越川 都

発掘の土器へ符号や雲雀東風
組み合はす須恵器の破片亀鳴けり
この須恵器に酒交はせしか草靡
春月へ手を伸ばしゐる巫女埴輪
花の宵神獣鏡の映せしもの
春星のささやき満ちて埴輪の目
縄文も今もピアスやさへづれり
摘草や碧き勾玉胸に揺れ
鳥雲に埴輪の母も子を抱き
陽炎へナウマン象の消えゆけり

准賞 青田風

田中由美子

無防備に泣ける母胎や春の雨
認知症無縁の色の椿落つ
ゆっくりとげんげ田奥へ母逝けり
主亡くし桜薬降る車椅子
臨月の白菜固く陽を畳む
春疾風産声高き児の来る
マスクして濃霧の中や静止画に
辛夷咲く新たなミスト撒きながら
再会のライン動画よ新樹光
入れ替わり伸びゆく命青田風

奨励賞 星の声

加用 富夫

前頭葉添水の声に目覚めけり
身に入むや脊柱に入る考の声
涸川の伏流水の声きよし
冬未明無数の星の聲はづむ
海神にたゆまずエール冬怒濤
寄り添へば耳朶に冬木の髓の声
日向ぼこ自問の声に自答なし
遺跡野の天より地より春の声
心底を打ちし師の声涼しかり
生と死へ思考みちびく蟬の声

俳句大賞 受賞のことば

浜松市 尾内 以太

推してくださった選考委員の先生や選考の関係者へ感謝の意を伝えたい。

前回は「デカメロン抄」で奨励賞をいただき表彰式に娘を連れて参加した。前回俳句大賞の「ニッポン」を読んで圧倒された。そのとき刻まれた感情を鋳型として応募作を書いた。題材は遠州地域から採った。自宅の大家でもある寺は遠江四十九薬師霊場に名を連ねる。娘を遊ばせる公園の隣には赤い十字架を天へ掲げる外国人向けの教会がある。ときどき参拝する事任八幡宮の裏手には茶畑と社家の墓地がある。そのほかも娘を連れて訪れた先で見た景色を題材にした。身近な題材を調理して普遍的な詩へ至らしめる。その過程と結果が楽しかった。楽しめた連作で賞をいただけるのは幸福である。

俳句は約十七音と短い。短さのなかに映像の結びやすさと屈折感のある構成と季感とを同時に含んでいなければならぬ。その難しさに諦めたくなくなるときもあったけれど今回の受賞を励みに研鑽を積みたい。

選考結果表（二次選考）

・ノミネート作品は左記16編（表中の※印は次点）

・各委員の最終選考の1位～8位までの選考結果を得点化して集計

（1位―10点 2位―8点 3位―7点 4位―6点 5位―5点
6位―4点 7位―3点 8位―2点 の配点による）

選考委員 作 品	秋	対	滝	東	秋	鈴	合計	入賞結果
	尾	馬	浪	城	本	木		
神も仏もない	10	10	10		5	4	39	大賞
陽炎へ	6	4	5	6	4	10	35	准賞
ヒトとして	8	7	4	10		6	35	准賞
青田風		8	6	8	6	7	35	准賞
なんだかだ	4	3	2	7	8	8	32	奨励賞
星の声			7	5	10		22	奨励賞
#（ハッシュタグ）	7	5	8				20	
里の夏		6			7	5	18	
海	5	2		2	3		12	
父からの手紙・ 今ならば	2		3	4		2	11	
銀色のペンキ	3						3	
詩魂						3	3	
御厨の桜				3			3	
ホップステップ					2		2	
我入道						※	※	
石鯨玉				※			※	

諸家近詠

夏の思い出

沼津市 石川 義倫

隠居所は味噌蔵の上苔の花
ひまわりや太平洋が駅の前
雲の峰直球勝負しか出来ず

氷いちい

富士宮市 内田 孝子

散る桜二行目なしの俳句かな
まん中の氷いちいこの赤悲し
いつ死ぬの孫の言の葉まるい月

地球の重さ

富士市 大池 美木

夏至の日の全部の影の長方形
忍冬の花や接吻をするかたち
露の草引く時地球の重さあり

中村哲様を偲ぶ

富士市 鈴木 武

哲様を柳を見ると想い出す
砂袋担ぐ哲様柳植え
哲様の勇氣優しさ行動を

夏終る

島田市 田中 陽

遊びが信仰にすすみこの国危い
医療逼迫・五輪あのインパール作戦に似るぞ
季語がないそれがどうした夏終る

夏の海

伊豆の国市 山岸 文明

大樟に凭れて見遣る夏の海
ひしめける大魚の影や生簀船
波音を聴き流木に涼みけり

稲光

静岡市 山下 和子

目標の一つ上ゆく立葵
九秒へ人生賭けし夏の陣
行きずりの顔見合はせて稲光

梅雨

沼津市 山田 千里

たて線のノートに埋まる梅雨
それは牡丹の最期だった
豆腐屋のラッパ 葛まんじゅうがある

流木

富士市 渡辺 郁子

冬渚流木にある骨密度
ゲルニカの女また泣くコロナ禍よ
憎むこと忘れておりし蕎麦を煮る

わが俳句工房 (92)

瀬戸川堤を歩く

焼津市 阿久津明子

焼津が「桜と鯉の町」と聞いたのは焼津に越して間もない頃でした。

確かに桜の季節、市内中の川の堤が桜に埋まり、沢山の鯉が泳ぐ様は美しい。

一番大きい瀬戸川の河口までの堤を歩くことを日課としてから、思いも掛けない自然との出会いに感動ばかりです。

翡翠の瞬間の飛込み、雉子との遭遇、火の帯となる彼岸花、勿論桜、梅、椿、折々の草花に、春の芽吹き、秋の紅葉そして鯉の聖地へ水鳥の飛来等々。

白鷺が寒夕焼けに舞込む姿に、火の鳥を思い一句。夏の早朝の陽に、水鏡して小魚を待つ白鷺達は、美しい天使の水浴びの様にも映り一句。

凡才の私に、そこからの名句はないけれど、歩けば脳も活性化するので。

地区の方達が春と秋二度の堤防のお掃除をされて守り愛している瀬戸川。暑い寒いのと歩くことを怠りがちですが、この堤を歩くことこそが、私の俳句工房なのかもしれません。

一句鑑賞

前号の「諸家近詠」の中から

密を避け心の密の初句会

川村 敬三

静岡市 秋本恵美子

初句会ともなれば、誰もが特別な気持ちで出席する。だが、今の現実を考えれば何とも寂しい。久方振りに会う友とも一定の距離を保たねばならぬ。勿論、全出席者マスク着用。準備に奔走して下さったスタッフはさぞや苦勞したであろう。一日も早く句友と顔を見合つて交歓したいものだ。「心の密」は作者の心より出たことばである。

自らを葉としつつ冬籠

喜多 周子

磐田市 松下 允子

今年の冬籠は特別でした。コロナ禍によりおしやべりや外出を楽しむ事もままならず、生活様式も随分変わりました。

コロナ自粛の冬籠の中で作者は先を見据えた新しい生き方を見つけたのでしよう。その目標へ自らを葉として進もうという気力を感しました。流されず、芯のあるしなやかさに引かれました。

極楽に父母を待たせて日向ぼこ

牧田 治子

静岡市 萩山 栄一

この句には様々な心情が盛り込まれている。「待たせて」と「日向ぼこ」のハーモニーであろう。父母を待たせて日向ぼこを楽しんでいる申し訳なさと自分も父母に会えるような歳になった、喜びも含まれている。やはり日向ぼこの季語が絶妙に効いている。極楽の象徴だろうか。

新会員紹介

伊豆市 後藤むつ子

あぢさみの見ゆる食卓まだ死ねぬ

優曇華や肩にくひ込む注射針

ざんざ降り雨の喝采薔薇散りぬ

小山町 勝俣とみ子

沢蟹の大雨察知身を守る

白百合の日に日に脹れ蕾かな

庭石で毎年遊ぶ蜥蜴かな

小山町 武藤 光江

オレンジの凌霄かずら空を越え

皺くちやの顔と梅干し手はまつ赤

コロナ禍の世界をよそに巣立鳥

エッセイ

三種の神器

浜松市 久田 洋子

「エッセイ」を書かなくては、ならなくなつた。元々、文章を書くこと、人前で話すことが、大の苦手である。そこで、エッセイとは辞書を引いた。
・ 気軽に書いた個人的散文
・ 作者の知性、教養を反映したもの
・ 随筆より思索的で評論より自由形式とある。日限が迫る。何をどう書くか困り果てて周りを眺めた。私は主婦！我が家の三種の神器でも紹介しよう！
◎ティファール電気ケトル
火を使用しないので消し忘れがない。
一杯分の湯が六十秒で沸く。
一杯分の湯が六十秒で沸く。
◎マキタのコードレス掃除機
軽量でほうき代わりに手軽に使える。階段の掃除などとても便利である。
◎通販生活メデイカル枕
高すぎず柔らかすぎず、大きさが肩と首すじをしつかり支え、頭にフィットするので良質の睡眠で熟睡ができる。
以上、高齢者にお勧め三種の神器です。ぜひ、お試し下さい。「エッセイ」完。

〔事務局より〕

〔新入会員〕（敬称略）

大石 恒夫（静岡市） 令和三年三月
 山本まさゆき（静岡市） 令和三年四月
 尾内 以太（浜松市） 令和三年四月
 土屋 悦子（静岡市） 令和三年五月
 貫名ともみ（富士市） 令和三年五月
 山本 敏子（静岡市） 令和三年五月

〔行事報告〕

①静岡県現代俳句協会役員会

令和三年六月五日（水）、静岡市「あざれあ」にて開催予定でしたが、コロナウイルス感染拡大により、中止と致しました。

②第十二回静岡県現代俳句大賞表彰式

及び令和三年度俳句大会

令和三年八月二十八日（土）、静岡市「あざれあ」にて開催予定でしたが、静岡県への緊急事態宣言の発出により、中止と致しました。

〔行事予定〕

①中部吟行文学散歩

開催日 令和三年十一月十三日（土）
 会場 静岡市「もくせい会館」
 吟行地 駿府城公園

②静岡県現代俳句協会役員会

日時 令和三年十二月四日（土）
 午後一時三十分～（予定）
 会場 静岡市「あざれあ」

③令和四年度静岡県現代俳句協会定期総会

日時 未定
 場所 静岡市「あざれあ」

※予定されている行事につきましては、状況を判断し、実施可否のお知らせを致します。

編集室からのお願い

次号一三〇号（十二月の発行の予定）の執筆予告をさせていただきます。ご協力の程、お願い申し上げます。

執筆予告（敬称略）

○巻頭随想 会計部長 佐藤 未来
 ○わが俳句工房 幹事 渡辺 郁子
 ○エッセイ 幹事 喜多 周子
 ○諸家近詠（全員参加の名簿順）
 風岡 俊子・佐藤 未来・竹 美玲
 滝浪さち子・渡邊 静風・有本 康弘
 松本 重延・秋山 一男・八木 淑

○一句鑑賞 今号（一二九号）の諸家近詠の中から一句選び鑑賞文をお願い致します。

川村 敬三・池ヶ谷章吾
 高橋 範子・牧田 治子
 ○新会員の紹介（近詠 三句）

大石 恒夫・山本まさゆき
 尾内 以太・土屋 悦子
 貫名ともみ・山本 敏子

詳細につきましては、別途、該当の方宛てに、令和三年十月頃、連絡させていただきます。



静岡県現代俳句協会会報 第二二九号

発行 令和三年九月二十五日

発行人 滝浪 武

編集人 田中 由美子

事務局 つけ 葉子

〒435-0034 浜松市南区安松町六三ー一
 電話・FAX 〇五三ー四六二ー〇五〇八